



平成 18 年 11 月 14 日

各 位

上場会社名 広島電鉄株式会社
代表者名 代表取締役社長 大田 哲哉
(コード番号 9033 東証第2部)
問合せ先 取締役M・Sカンパニープレジデント
椋田 昌夫
TEL(082)242-3542

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

平成 19 年 3 月期中間決算において、特別損失を計上する見込みとなりましたので、その概要をお知らせするとともに、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 18 年 5 月 19 日の決算発表時に公表しました平成 19 年 3 月期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生について

連結決算において、当社子会社が保有する固定資産の一部について不動産鑑定評価を行った結果、時価が著しく低下したため、当該固定資産の評価損を減損損失として 3,300 百万円、また資産状況の透明性と健全性を高めるため、「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成 18 年 7 月 5 日 企業会計基準第 9 号)を早期適用することに伴い、販売土地建物評価損として 1,051 百万円を特別損失にそれぞれ計上いたします。

また、個別決算において、当社所有の一部の投資有価証券及び関係会社株式の時価が著しく低下したため、当該株式の評価損を投資有価証券評価損として 303 百万円、関係会社株式評価損として 3,933 百万円、「棚卸資産の評価に関する会計基準」を早期適用することに伴い、販売土地建物評価損として 865 百万円を特別損失にそれぞれ計上いたします。

2. 平成 19 年 3 月期業績予想数値の修正

(1) 中間期業績予想数値の修正 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日)

連結業績予想

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	20,000	700	100
今回修正予想(B)	20,438	1,136	△4,069
増減額(B-A)	438	436	△4,169
増減率(%)	2.1	62.3	—
(参考) 前期(平成17年9月期)実績	19,515	387	△363

個別業績予想

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	8,900	600	350
今回修正予想(B)	9,277	830	△4,617
増減額(B-A)	377	230	△4,967
増減率(%)	4.2	38.4	—
(参考) 前期(平成17年9月期)実績	8,954	482	322

(2) 通期業績予想数値の修正 (平成18年4月1日～平成19年3月31日)

連結業績予想

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	40,000	1,600	800
今回修正予想(B)	40,000	2,000	△3,400
増減額(B-A)	—	400	△4,200
増減率(%)	—	25.0	—
(参考) 前期(平成18年3月期)実績	40,446	1,607	596

個別業績予想

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	17,300	1,200	600
今回修正予想(B)	17,800	1,500	△4,300
増減額(B-A)	500	300	△4,900
増減率(%)	2.9	25.0	—
(参考) 前期(平成18年3月期)実績	18,543	1,427	513

3. 修正の理由

連結中間期業績予想につきましては、当社を中心とする運輸業において当中間期の長梅雨等の影響により旅客収入が予想以上に好調に推移したこと、および建設業において一部の受注工事が当初の予想より前倒しで完成したことなどが影響し、経常利益は当初予想を上回るものの、当該特別損失の発生により、当中間純利益は当初予想の100百万円から中間純損失4,069百万円になる見込みであります。

個別中間期業績予想につきましても、鉄・軌道事業、自動車事業ともに長梅雨等の影響により業績が予想以上に好調に推移したことにより、経常利益は当初予想を上回るものの、当該特別損失の発生により、中間純利益は当初予想の350百万円から中間純損失4,617百万円になる見込みであります。

連結通期業績予想につきましては、中間期までの状況、当該特別損失の発生等を勘案し、当初予想の当期純利益800百万円から当期純損失3,400百万円になる見込みであります。

個別通期業績予想につきましては、中間期までの状況、当該特別損失の発生等を勘案し、当初予想の当期純利益600百万円から当期純損失4,300百万円になる見込みであります。

以 上